

発行所
青森県高等学校・障害児
学校教職員組合
青森市橋本1丁目2-25
教育会館017(734)7287
編集発行人 田村儀則
購読料一部20円は組合費
の中に含む

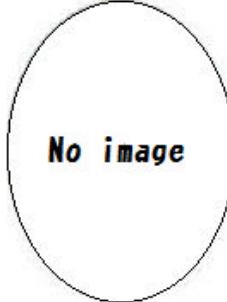
●運動支援カンパにご
協力をお願いします。
高教組運動充実のため、
支援カンパへの協力をお願い
します。

Eメール aokokyos@olive.ocn.ne.jp ホームページ http://www.geocities.jp/aokokyoso/ ブログ http://plaza.rakuten.co.jp/sannkyoso05/

新たなる希望の年に

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。
いつも高教組の署名、カンパ、主任手当拠出などに協力いただき、心から感謝しています。また、多忙化の進行、賃金・退職金削減、人事評価の賃金リンクなどが進み、困難なときだからこそ、高教組への加入を心から訴えたいと思います。



今の高教組の重要課題は、多忙化解消、競争と管理の教育からの脱却、平和主義・民主主義・立憲主義を堅持することです。昨年6月に県教委が実施した青森県の教職員の勤務実態調査を基に高教組で試算した結果では、残業時間は教員平均で85.0時間となり、誰でも精神疾患になったり過労死したりする危険性を露呈しました。

多忙化解消に向けて

多忙のために「しつかりした授業ができない」「家庭生活が困難になる」「体調が悪い」などの問題が蔓延化しています。多忙は教職員の専門性を阻害し、私生活を破壊します。「いい先生」ではなく、「幸せな先生」になることが、教師

競争と管理の教育からの脱却

競争と管理は学校に深くはびこっています。競争は生徒、教師、学校間競争へ重複的に拡散しています。それが、お互いに相乗効果で激化し、教師一人ひとりに戻ってきません。この状態が、学校教育の劣化と教職員の生活破壊に直接つながっています。人間らしい教職員生活を取り戻すことが急務です。

人事評価制度を介した人事管理が8年間実施されてきました。自分の評価を落とさないために、上の目を気にしながら仕事をしなければなりません。さらに、人事評価制度の賃金リンクという形でこの制度は強固なものとなります。教職員間の競争は教職員の共同・協力を阻害し、学校教育を劣化させます。

平和主義・民主主義・立憲主義の堅持

安倍政権は、国民の6割が反対し、8割近くが論議不十分とする中、憲法違反の「戦争法案(安全保障関連法案)」を2015年9月19日未明、参議院本会議で強行採決しました。日本の平和を堅持することが、子どもたちを戦場に送らず、教育を通して輝かしい日本の未来を保障することにつながります。

新たなる希望

しかし、嘆いてばかりでは何も解決しません。私たちには希望があります。私たち組合の活動は、全ての教職員の賃金、労働条件に関わる活動であり、教職員の願いをかなえるためのものです。全国では平和・民主主義を求め若者たちが声をあげ始めました。私たちはこれらの動きに呼応し、確信を持って組合活動を続けていきます。今年もよろしくお願ひします。

青森県高等学校・障害児学校教職員組合
執行委員長 田村 儀則

坂道の風

「自らの心の子どもと書いて息子と呼ぶなら、俺のやり残したことをやってくれ。」ある演歌の一節だ▼父は戦後、苦学して教師になった。母校の定時制高校などで生涯一教師を貫いた。酒と山と海を愛し、何より子どもたちを愛した。そんな父と私は高校3年生のときにひと言も口を聞かなかった。大人や社会の矛盾と不条理さへの不満を父にぶつけていた。自分の自信のなさど父親を乗り越えられないもどかしさだと気付いたのは家から遠く離れた大学で学んだあとだ▼大学卒業後、私は父と同じ教師の道に進んだ。先輩や仲間を支えられ、たくさん先生の息子として今を生きている。長男は大学生、二男は高校3年生。春には彼もまた旅立つ▼戦後71年の申年は未年より大きな変革になる年だ。何が正しく何が間違いか。不条理に声を出して意見を言うことは大切なこと。父から学んだことを二人の息子に繋げるためにも私は仲間とともに歩み続けたい。(雅)

全国教職員学習交流集会 in 青森

11月21、22日、北は北海道から南は沖縄まで210名もの参加者が、浅虫温泉「海扇閣」で開催された「全国教職員学習交流集会in青森」に集いました。

No image

講演をする白井聡氏

ベストセラー『永続敗戦論』を著した京都精華大学の白井聡氏の全体講演『戦後の終わりを迎えて』は、まさに戦後から現在に至る政治状況を鋭く分析した内容でした。戦後日本は「敗戦の否認」を続け、東西冷戦期にはアメリカが日本の民主化より反共政策をとり、旧支配層を再登板させ、その後彼らは異常なまでのアメリカ従

属の姿勢で日本を支配し続けてきたこと。既得権益を守ろうと「戦後レジームからの脱却」と称してはいるが、安倍政権は「敗戦の否認」をずっと続けているという分析でした。講演の最後に、「困難なこの時代だからこそ、私たち国民自身、江戸時代を終わらせ新しい時代の幕開けに尽力した坂本龍馬となり、ともに未来を切り開いていきましょう。」と励まされました。

分科会では、青森県の独自企画で「教職員の多忙化を考える」「虎の穴」を体験してみよう」「特別なニ

No image

冒頭の挨拶をする田村執行委員長

第127回中央委員会開催

■賃金リンクについて
来々4月から人事評価に基づく賃金リンク制度の説明がありました。先日、県教委から第一次提案が出されました。詳細はこれから出されます。教育現場になじまないこの評価制度を、客観性・公平性・透明性のある制度にするため今後の交渉が重要です。委員会では様々な質問が出されました。交渉は続きますので、皆さんでご参加ください。

■特別決議を採択
「憲法をいかに、平和と民主主義の確立を目指してきた高教組運動に確信を持ち、青森高教組をさらに強く大きくするために、青年の活動拡大と組織拡大の取り組みを進めよう。」

ズのある子の支援」「基地から平和を考える」を設定し、全国の参加者のみなさんと情報や課題を共有することができました。12月13日(日)に青森県教育会館で中央委員会が開催されました。年末の多忙な中での開催とあって中央委員の不足が危惧されましたが、午前午後とも充足し無事に終えることができました。田村委員長から、多忙化解消、競争と管理の教育からの脱却、平和・民主主義・立憲主義を堅持することの3つ課題が出され、元気をだして帰れるように中央委員会を成功させましょうと挨拶がありました。18人の参加者から発言があり、多忙化解消、人事評価に基づく賃金リンク制度、障害児教育問題などで活発な議論がされました。

多忙化問題・査定昇級制度・憲法問題について熱く討論

■多忙化解消
校長が音頭を取って、年休を取らせている学校の報告が2つありました。しかし、その一方で受験実績の悪化を理由に、徹底指導を強化する管理職もいるようです。職業高校では、部活動、資格指導などで多忙化が進んでいます。学校で多忙化解消のために困っている報告もあり、それぞれの学校での取り組みも大切だし、世論を作っていくことも大切だと感じました。

■憲法を守る運動
憲法を守るために2000万署名が提起されています。弁護士、シールズなどが立ち上がっています。戦争をリアルに学び、人生観を磨くことが憲法を守る一歩です。皆さんもこれから送られる2000万署名にご協力ください。

学習会もありますので参加して一緒に、学校で困っている子どもたちのために取り組みを進めましょう。

多忙化解消の一步に

多忙化解消検討委員会 報告書(案)完成

教職員の多忙化解消のための具体的方策を検討してきた県教委の多忙化解消検討委員会の審議が終わり報告書がまとまりまりました。同委員会は合計6回、延べ11時間以上を費やし、議論を重ねてきました。高教組も参加したこの検討委員会の成果と課題について報告します。

●経緯

県教委は2013年1月に428万円にもおよぶ退職金引き下げを強行しました。さらに、同年7月から2014年3月までの9ヶ月間、東日本大震災を理由に平均7.8%に及ぶ給与カットが行われました。この退職金や賃金の削減を巡る交渉の中で組合側から「給料を減らすなら労働時

間を減らせ!」という強い要求が出され、県教委は多忙化問題の解決とそのため

の勤務実態調査の実施を約束しました。
●勤務実態調査
検討委員会開催を前に2014年5月〜7月教職員の勤務実態調査が実施されました。回答者は校長544人、教職員1395人でした。

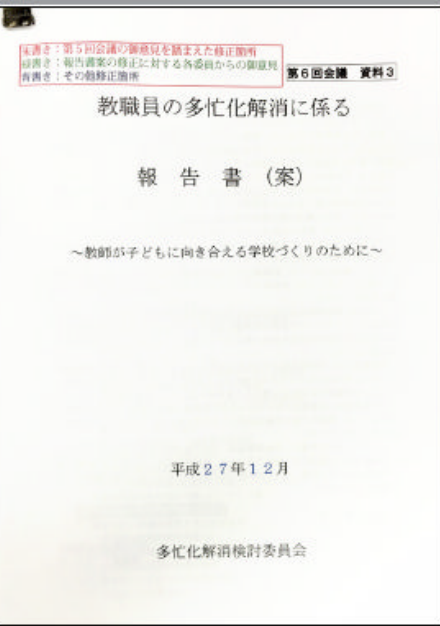
●成果

今回の検討委員会の最大の成果は、勤務時間を「容易」にかつ「客観的」に記録することが盛り込まれたことです。現在の制度は「時間外・休日労働記録簿」を労働者自身が記録し、管理職の求めに応じて提出するという形ですが、これは「容易」でも「客観的」でもありませんでした。その証拠に全体で平均月84時間におよぶ超過勤務がある(県立高校・県教委の調査結果をもとに高教組が計算)にもかかわらず、80時間時間以上の超過勤務があると申し

出た職員はわずか1校5名にすぎません(2013年)。超過勤務時間を客観的に記録できれば、具体的な数字が明らかになり、長時間勤務解消の動きが加速することが期待されます。
●課題
成果の一方で多くの課題も残りました。その中の2点を指摘します。
1点目は状況と問題点の分析が不十分だったという

点です。報告書(案)は大きく分けて勤務実態調査の結果と具体的な方策の2つの部分から構成されていますが、その間をつなぐ、多忙化の全体的な状況認識とそれがもたらすデメリットについての記述がありません。すべての職員が平均月84時間の超過勤務を行っているというこの異常性・危険性と、そのことが

職員の健康・生活・モラルを破壊し、教育の創造性や柔軟性を失わせていることを明らかにすべきでした。これは、具体的な対策を提示できなかった組合側の弱さでもありません。2点目は検証するシステムを設けることができなかったということ。目的は多忙化の解消ですが、今回の報告書(案)に盛り込まれた具体策によってどの程度多忙化が改善されたのかを検証する必要があります。そのため制度を組合側として提示しましたが、事務局等の抵抗で実現しませんでした。せっかく出された報告書ですが「画竜点睛を欠く」ことにならないよう、今後も継続して提言と要求を行っていきま



報告書(案)

◆事情がない限り、ほとんどの土日に部活動(運動部)を行っている。各部の裁量で休みにしても良さそうだが、「他の部は土日やっているから」等で休みにしづらい。決まりごとで土日のどちらかは必ず休むとか、隔週で休みをいれるとか作ってもらえるとありがたいです。家庭不和の原因にもなり困っています。
◆自分に問題があるのかもしれませんが、多くのことを並行してやるのがあまり上手にできず、仕事の種類が多くなると、飽和してしまいます。できるだけ仕事の種類は少なくなって1つの事に集中できる環境になればいいと思います。
◆教員はボランティア業だと考えており、日々努力しております。あまり「枷」をせず、自由な手腕を発揮させていただけると助かります。
◆教科指導がおろそかになっているような気がしてなりません。学習指導等にももう少し時間を割きたいと思ひます。その

学習指導以外の業務が休みなく続くことにより、自分がはたして教員なのか疑問を感じるようになり、苦痛を思えるようになってきている。

◆事情がない限り、ほとんどの土日に部活動(運動部)を行っている。各部の裁量で休みにしても良さそうだが、「他の部は土日やっているから」等で休みにしづらい。決まりごとで土日のどちらかは必ず休むとか、隔週で休みをいれるとか作ってもらえるとありがたいです。家庭不和の原因にもなり困っています。

◆自分に問題があるのかもしれませんが、多くのことを並行してやるのがあまり上手にできず、仕事の種類が多くなると、飽和してしまいます。できるだけ仕事の種類は少なくなって1つの事に集中できる環境になればいいと思います。

◆教員はボランティア業だと考えており、日々努力しております。あまり「枷」をせず、自由な手腕を発揮させていただけると助かります。

◆教科指導がおろそかになっているような気がしてなりません。学習指導等にももう少し時間を割きたいと思ひます。その

ために良い方策が浮かばないので、事務処理能力やICT活用能力を高めるしかないのかと思っています。

◆教員数を増やすこと。教員は残業することが日常化している。教員に求められること(外部対応)が年々増えてきている。残業することが日常化しているということは、仕事量に対する人員が不足しているということの証ではないだろうか。

◆教員数が少なく、一人一人が負っている役割・責任が大きい。そのような中で、とてもではないが平日に休みは取れない。休みを取ったらたの教員に迷惑をかけるか、休み明けに自分の負担が大きくなるだけ。

◆庶務システムが導入されてから教員も事務職員も忙しくなった。
◆体調を崩しても授業をいきなりたのむのは気がひける。振替を取ろうにも何もない日がないので取れない。

勤務実態調査の自由筆記欄より

この子たちの未来のために 仲間へ新しい命が

2015年、わたしたちの仲間が、新しい命を授かりました。喜びの声を聞き、共に喜ぶとともに、新しい命の未来を守るために、何をすべきか、考え、行動しましょう。

No image

域や社会、自然に育ててもらえれば最高です。その中から自分の道を見出だしてくれたら、私はそれを全力で応援したいです。(M)



初担任の生徒を卒業させ、ようやく念願の子どもを持つことが出来ました(1月26日生まれ、男の子です)。子どもの言動に一喜一憂する毎日です。子どもをもって初めて母親の偉大さや大変さを身にしみて感じています。しかし、子どもの成長や笑顔に癒され、一緒に成長していくこととする部分は教師と相通じるものがあると思います。生徒と一緒に自分の子どもにも多くの人と触れ合い、さまざまな体験をして欲しいと思っています。地

1月7日、ようやく授かりました。今こうしてわが子を抱っこしていることが幸せです。生まれてすぐはすべてのが慣れず時間がかかったり心配になったり不安でした。今では少しずつ慣れて、赤ちゃんと一緒に生活リズムを作っています。わが子には元気でたくましく、たくさんの方に興味をもって大きくなってほ

No image

しいと思います。出産に至るまで、職場の先生方には大変お世話になりました。ありがとうございます。(T)

10月13日に我が家にも希望の男の子が誕生しました。最近、手足をばたばた動かす力も驚くほど強くなり、元気がいっぱいです。教員になってもうじき20年。思えばあつという間でした。でも20年は、赤ちゃんが大人になってしまう時間でもあります。将来のことを気にかけてながらも、今の瞬間を大切にしていきたいと思えます。(M)



平成27年11月2日に、第一子(女の子)が誕生しました。家族が増えてうれ

クマの里から

AAJ(日本留学特別コース)の学生に長期の夏休みはありませんが、2か月ごとに1週間、授業のない期間(ブレイク)があります。9月下旬のブレイクを利用して、ボルネオ島へ旅行してきました。マレー半島にあるクアラルンプールから、飛行機で東へ2時間半でボルネオ島最大の都市・コタキナバルに到着。ここは日本から直行便で来る観光客が多いせ

しい気持ちでいっぱいですが、子ども中心の生活にはまだまだ慣れず、毎日があつという間に過ぎていきます。自分が生まれた頃と比べ、環境が大きく変わったこれからは生きる娘には、思いやりのある子になってほしいと思います。そのために、私たち大人が安心して暮らせる社会を作っていく必要があります。一人一人ができることを考えて行動することが、未来を担う子どもたちのためになるはずです。(N)

全教共済

くらしの賠償責任共済

ご家族まとめて、掛金は月々150円

個人賠償責任補償は、**国内無制限**(示談代行付)です

※各共済会によって異なります。くわしくは各共済会へお問い合わせください。

あなたをひとりにしません。

教職員賠償責任共済

心配な事があつたらひとりで悩まないで、まずは、組合・共済会へ相談

もしかしら?自分にも起こるかも...
でも、あなたをひとりにしません!
これまでに業務中のハット(としか)とヤッ(としか)はあつた事ありませんが、この共済会に加入すれば、もしもハット(としか)やヤッ(としか)があつた時に、自分自身も賠償責任を負うことができます。

掛金は月150円
最高5,000万円補償

ボルネオ名物のオラウータンにも、コタキナバル近郊のロッカウィ動物園で会うことができました。2016年はサル年です。新年もよろしくお願います。

(北斗高校分会 片桐拓)

オラウータンの親子。ロッカウィ動物園にて